

水車と花通り

安松一幸さん寄稿(包末)

私と水車との出会いはかれこれ十年程前、宿毛市の偉人生家跡や史跡見学に行き、帰りに中村の水車を見物に立ち寄り豊富な水量の大きな川に幾つもの大きな水車が回っているのを見たのがきっかけです。自分も作ってみたくなりそれ程大きな水車は無理でも、自宅横の川に合った



安松さん、自慢の水車とあじさい

小さな水車であれば、素人でも出来ると思いい個だけ作ってみました。それがJAの広報にも載り多くの人々が見に来てくれました。

水車通りにしようと思いい、だんだん数を増やし十個にまでなり、回転を利用していろいろと仕掛けも作りテレビでも放送されました。遠方からも多くの人達が小さい子供や孫を連れて見に来てくれ、大変喜んで見えました。

川干期を除き、年中回っているのを傷み壊れたのを放置しているのを子供達があつかりしているのを見て、丈夫なものにして直す事にしました。今では全て二代目のものばかりです。川沿いに水に良く映るアジサイを植え、又以前からやっていたサツキの盆栽、ツツジ、フジもあり四月から六月まで何らかの花が楽しめるようにしてみました。そして趣味で集めていた古い鬼瓦も並べてあり、見に来てくれた人が珍しがって見てくれます。又昔の清流を取り戻そうと環境美化運動に取り組んでおられる大学の先生が講義の良い教

材になると写真を撮りに来られた事もありました。

水車の管理や盆栽の手入れ等大変で年々負担になって来ました。しかし趣味でやっているのを多くの人達が見物に来られ喜んでくれるのが励みになり、又ぼけ防止にもなるうかと思いい、少しでも長く続けようと思いい、おります。

パン焼き窯

西野義輝さん寄稿(福船)

過日、岩村公民館の広報部より岩村ふれあい便りに何か投稿してくれないかと電話があつた。その時は思いがけない事で一瞬とまどつたがよく考えてみると、せっかくの機会を生かす手立てはないものかと考え、日常の事を書く事にした。花鳥風月か、いや待てよ、食うか飲むのもえい、飲むのはボロが出る恐れがあるので「食う」にしよう。先日庭に赤土を鍊って、薪焚きのパン焼き窯を作った。それもピザが旨いので「腹いっぱい食うてみたい」ただそれだけの事で一か月余りの労を要した末に、やっと出き上がったので、



連絡090-7574-2431西野まで

半日ほど試運転に薪を焚いてみた。

夕闇が迫り静かに燃える火を眺めていると、ガスや電気にはない心の安らぎを覚えた。さあ、感傷に浸っているのはこれまでにして、元の動機に戻つて、ピザを腹いっぱい食うてみよう。

しかし赤土は鍊ってもピザの生地はようねらん。自分のあわてものぶりにおもわず笑いが出た。

この投稿で読者の皆様にパン焼き窯が出来たことを知っていただき、ピザやパン焼きに興味がある人と一緒に楽しむことにしよう。

食べてみたい方、焼いてみたい方、気軽に声をかけて下さい。